

新入生歓迎特集

詩歌を読もう



CONTENTS

詩歌を読もう

LIBRARY NAVIGATOR

VOICE

図書館さんぽ 第3回「日本の酒情報館」

新収資料紹介

INFORMATION

現代詩人の鮎川信夫（1920～86）に「必敗者」という詩があり、それは次の二行で締めくくられています。

われわれのコーネリアスはどこまで歩いていけるだろうか？

□<sup>くちす</sup>誦さむ一篇の詩がなくて！<sup>(1)</sup>

コーネリアスというのはこの詩に登場するアメリカの無名詩人の名ですが、ここでは広くわれわれ全ての中に棲む普遍的な詩人の魂と考えるのがよいでしょう。したがってこの二行で言われていることは、口誦さむ一篇の詩がなければ、われわれは魂をもった生き物として人間らしく生き続けることができない、口誦さむべき詩のない時代は不幸だ、ということです。

皆さんは何のために大学に来ましたか。多くの人が、社会に巣立つときに有用な知識と技術を身につけるためにと答えるでしょう。もちろんその答は間違っていない。大学は皆さんが必要とする知識や技術を提供するために存在するのである。しかし魂をもった人間として日々を送るためには知識や技術だけで十分でないことは今さら言うまでもありません。昔から<知><情><意>の円満な発達ということが人間の完成の目標とされて来ました。<知>は知識、<情>は感情、<意>は意欲と考えるとよいでしょう。大学の講義は確かに皆さんに<知>の宝庫を開いてくれるでしょうが、<情>や<意>についてはあまり多くを期待できないでしょう。<情>や<意>は皆さんが自ら培って育ててゆくほかないのです。

ところで上のように人間の能力を<知><情><意>の三つに分けて考えたのですが、これら三者が互いに無関係というわけではありません。むしろこの三者が相携え重なり合って相乗的に効果をあらわし、十全な人間を作りあげてゆくのだと言ってよいでしょう。例えば、<知>は<知>だけにとどまるなら、ひからびた味けない無機質な事柄の羅列にすぎません。しかしこれに意欲と感情が加われば、あたかも萎れた草花が灌水を得て咲き誇るように、知の領野はにわかに活性化し見事な成果を上げるでしょう。<知>をめざす皆さんの努力が実を結ぶためには<情>と<意>の加勢が不可欠なのです。

私は、<情>と<意>を涵養する上において詩歌が非常に有効だと考えるのですが、もちろんこれは詩歌に限ったことではありません。小説でも演劇でも音楽でも美術でも舞踊でも良いのです。ただ詩歌が最も手取りばやく、直截的で、習得に手間ひまが（そしてお金も）かからないとは言えるでしょう。それは詩歌が、真の意味で、生きた言葉だからです。凝縮した生きた言葉だから直截に胸にびんびん響くのです。命と言葉に敏感でありさえすれば詩を読む資格は十分です。詩歌は意欲と感情の上に成り立っていますから、意欲や感情が千差万別であるのに応じて詩歌も多種多様です。今の自分には縁遠い詩、

難解な詩、面白く感ぜられない詩もあって当然です。時が移り環境が変わればそれらの詩が急に切実に身に沁みて感じられることもあるでしょう。取りあえず現在は自分の心に響くものを選んで注意深く読めばよいのです。

ところで、詩を読み終わった後も、短いものであればその詩全体が、長いものであればその中の数句がずっと耳に残って、道を歩いている時も、電車に乗っている間も頭の中で<sup>こだま</sup>呟し続けるというような経験がありませんか。知らず知らずのうちに唇が開いてそれらの言葉を口に遊ばせていたということがありませんか。もしあるとすればそれが口誦さむ一篇の詩なのです。詩を口誦さんでいるとき、私たちは個我的日常を離れて世界と一体化しています。存在を生きているという感じがします。詩の内容がどんなに不幸なものであれ、それを口誦さんでいる間は私たちは幸福なのです。

ここで、私が詩を読み始めた頃のことを少し話しましょうか。青臭い過去のことを語るのは気恥ずかしいのですが、詩を読み始める皆さんに多少とも参考になればと願って書きます。

私がまっとうに詩歌を読み始めたのは高校時代、特に受験期でした。くらい憂鬱な時代です。受験勉強が苦痛であったばかりでなく、何かにつけて自意識の過剰さに悩まされたやっかいな年頃です。自分はどうして他の人たちのように明るく素直に健康的になれないのだろうかというような事ばかり悩んでいました。当時、高校に、古典の先生が指導される短歌部というのがあり、そこに入部して歌を読んだり作ったりし出したのがそもそもの始まりです。石川啄木や若山牧水の歌がまっさきに飛び込んできました。どういうわけか、彼らの歌の中でもとりわけ暗い歌に魅かれたのです。啄木の歌の中では、

病のごと<sup>やまひ</sup>思郷の心湧く日なり目にあをぞらの煙かなしも<sup>(2)</sup>

というようなのが愛誦歌でした。「思郷の心」など知るはずもなく、ただ「目にあをぞらの煙かなしも」というフレーズが何かいがらっぽいらした気分を和めるのにぴったりマッチしたのでしょう。牧水の歌では、

海底<sup>うなぞこ</sup>に眼のなき魚の棲むといふ眼の無き魚の恋しかりけり<sup>(3)</sup>

が、とりわけ好きでした。外界をシャットアウトしてひたすら内にひき込める自閉的な歌の最たるものですが、これが限りなく慰めを与えてくれたのです。斎藤茂吉の、あかあかと一本の道とほりたりたまきはる我が命なりけり<sup>(4)</sup>

も、暗い激情を秘めた悲劇的なトーンが、若い繊弱な心を底から揺さぶったのです。



詩の方では萩原朔太郎の『月に吠える』が最も衝撃でした。

地面の底に顔があらはれ、  
さみしい病人の顔があらはれ・・・(5)

は、今でもその全部がすらすらと口を衝いて出てきます。

宮澤賢治の「春と修羅」の次の一節は、自罰の苦しみと反抗のヒロイズムとが一つに緋いませられて、少年期の感情をさながらに代弁してくれました。

四月の気層のひかりの底を  
唾し はぎしりゆききする  
おれはひとりの修羅なのだ(6)

それから、中原中也。

汚れつちまつた悲しみに  
今日も小雪の降りかかる・・・(7)

立原道造の「夢はいつもかへって行った 山の麓のさびしい村に・・・(『のちのおもひに』) (8)

とか、三好達治の「母よ／淡くかなしきもののふるなり／紫陽花いろのもののふるなり・・・」(「乳母車」) (9) など、甘い追憶を誘う抒情詩にも、とめどなく心を蕩かされたのです。



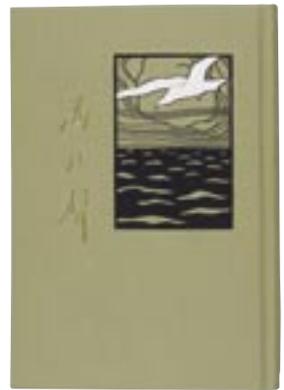
暗い気分の時に暗い詩を好むのは変なようですが、実は変でも不思議でもないのです。心はいつも対象化を求めています。心は自分と同じ心に出会うと慰められ安らぐのです。そればかりではありません。自分よりはるかに大きな凄い悩みや苦しみの持ち主に会うと、とたんに自分の悩みは軽く



され、自分を超越出てもっと大きな苦悩に立ち向かうよう鼓舞され激励されるのです。口誦さむ一篇の詩がなぜ必要なのかこのことからもおわかりでしょう。

大学に入ってから、暗い詩ばかりでなく、明るく陽気な詩、勇壮な詩、典雅な詩、滑稽な詩、辛辣な詩、豪華絢爛な詩も好きになりました。日本の古典や近現代詩ばかりでなく、中国の詩、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカの詩も読むようになりました。朝から晩まで詩ばかり読んでいた時期もあります。下宿に籠って余り交遊もしませんでした。心の中は世界中を飛び回り、数しれぬ魂にゆきあい、興奮して語り合っていたような気がします。

実はこれらについて読書案内のようなものを書くつもりでしたが、数えあげてゆくとときがありませんので省きます。代わりに、下欄に、愛読した詩集の中から主だったものを掲げておきました。詩を読み始める皆さんの一つの目安にしてもらえれば幸いです。これらはすべて中央大学の図書館の中で眠っています。皆さんがやって来て手に取り揺り起こしてくれるのを待ちます。どの一冊も口誦される一篇の詩になることをこいねがっているのです。



(注)

1. 鮎川信夫詩集『宿恋行』(思潮社 1978)	911.56 A98	中央
2. 石川啄木歌集『一握の砂』(東雲堂書店 1910)	911.16 I76	中央
3. 若山牧水歌集『路上』(博信堂 1911)	911.16 W28	中央
4. 斎藤茂吉歌集『あらたま』(春陽堂 1921)	918.6 Sa25	「斎藤茂吉選集1」開架
5. 萩原朔太郎詩集『月に吠える』(感情詩社・白日社共同出版 1917)	911.56 H14	中央
6. 宮澤賢治詩集『春と修羅』(関根書店 1924)	911.56 Mi89	中央
7. 中原中也詩集『山羊の歌』(文圃堂 1934)	911.56 N33	中央
8. 立原道造詩集『萱草に寄す』(風信子叢書刊行会 1937)	911.56 Ta13	国文
9. 三好達治詩集『測量船』(冬至書房 1964)	911.56 Mi91	中央

私の推薦リスト

<詩集>

1. 島崎藤村『若菜集』(春陽堂 1897)	911.56Sh45	中央
2. 伊良子清白『孔雀船』(左久良書房 1906)	911.56I63	中央
3. 薄田泣菫『白羊宮：詩集』(金尾文淵堂書店 1906)	911.56Su82	中央
4. 北原白秋『思ひ出』(東雲堂書店 1911)	911.56Ki64	中央
5. 山村暮鳥『聖三稜玻璃』(にんぎょ詩社 1915)	911.56Y32	中央
6. 室生犀星『抒情小曲集』(感情詩社 1918)	911.56Mu74	国文
7. 吉田一穂『海の聖母』(金星堂 1926)	911.56Y86	中央
8. 安西冬衛『軍艦茉莉』(厚生閣書店 1929)	908G34	中央
9. 西脇順三郎『Ambarvalia』(椎の木社 1933)	911.56N87	中央

10. 伊東静雄『わがひとに与ふる哀歌』(杉田屋印刷所 1935)	911.56I89	中央
-----------------------------------	-----------	----

<歌集>

11. 与謝野晶子『みだれ髪』(東京新詩社 1901)	911.16Y85	中央
12. 正岡子規『竹の里歌』(俳書堂 1904)	911.16Ma63	中央
13. 若山牧水『海の声』(生命社 1908)	911.16W28	中央
14. 北原白秋『桐の花』(東雲堂書店 1913)	911.16Ki64	中央
15. 斎藤茂吉『赤光』(東雲堂書店 1913)	911.16Sa25	中央

<句集>

16. 水原秋桜子『葛飾』(馬酔木発行所 1930)	911.368Mi94	中央
17. 山口誓子『凍港』(素人社書屋 1932)	911.368Y24	中央
18. 西東三鬼『旗』(三省堂 1940)	911.368Sa25	中央

<訳詩集>

19. 森嶋外『於母影』(『国民の友』付録 1889)	Z05K320	中央
20. 上田敏『海潮音』(本郷書院 1905)	911.59U32	中央
21. 堀口大学『新篇 月下の一群』(第一書房 1928)	911.59H88	中央

<アンソロジー>

22. 西郷信綱他編『日本詞華集』(未来社 1958)	911Sa18	中央
23. 山本健吉編『日本詩歌集-古典編』(講談社 1982)	911Y31	中央

(1~16, 18~20) は複製版となります。また、6は講談社文芸文庫として「開架」にもあります。

# Library Navigator

## 日経テレコン21

### 1 はじめに

新聞記事は、雑誌論文や図書に比べはるかに速報性に優れ、最新の時事問題や話題の物事についての情報を幅広く入手することが出来ます。毎日の最新情報を知ると同時に、過去の時事的情報を調査する際に役立ちます。しかし、過去から現在にかけての膨大な量の記事の中から、ある事象に関する記事が欲しいとき、やみくもに見つけ出すことは非常に困難なことです。そんな時に有効な検索手段といえるのが、新聞記事をキーワード1つで探し出すことのできる、新聞全文検索データベースです。今回はその中から新聞記事のみならず、就職に役立つ企業情報まで調べることのできる「日経テレコン21」をご紹介します。

### 2 日経テレコン21とは

日経テレコン21では1975年以降の日経4紙の全文記事検索、企業情報（全国約3万社の企業概要、決算・財務状況など）、人事情報、為替・株式情報ほか各種の産業経済関連統計情報などを調べることができます。

### 3 利用方法

#### (1)接続方法

外部データベース情報検索用端末（中央図書館内、大学院図書室、総合政策学部図書室、理工学部図書館内および市ヶ谷キャンパス図書室内）及び、法学部情報処理室、経済学部ワークステーション、経済学部図書室、商学部ワークステーションのそれぞれに設置された特定端末で利用できます。

#### (2)接続の実際

- ①中央大学図書館ホームページ<http://www2.tamacc.chuo-u.ac.jp/library/> のメニューにある「外部オンラインデータベース」をクリック。
- ②「外部オンラインデータベース検索」ページの「日経テレコン21」をクリック。
- ③「日経テレコン21」紹介ページ下段のボタンをクリックし、ID・パスワード認証画面でログインボタンをクリック。
- ④利用したいメニューのタブをクリックし検索を行います。  
※利用終了の際は、必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてください。

### 4 新聞記事検索

日本経済新聞・日経産業新聞・日経金融新聞・日経流通新聞の日経4紙について1975年から前日までの記事の全文が検索できます。キーワードによる検索だけでなく、媒体や期間、記事中の検索範囲を指定できるほか、検索式による検索もできます。また、最初の検索結果から、さらに絞り込みや拡大など条件を変更して続けて検索することもできます。検索結果一覧は、刊行順や媒体順で並べ替えることができ、見たい記事をチェックすれば一度に複数の全文記事をHTML形式で読むことができます。また、ほとんどの記事はPDFファイルで新聞掲載時のイメージそのままを見ることも可能になっています。

#### ①新聞記事検索画面



#### ②新聞記事見出し一覧画面



③記事本文画面



サムネイル

表示  
新聞記事イメージで  
ルをクリックすると  
本文右上のサムネイ

④新聞記事イメージ表示画面



## 5 企業情報・人事情報

企業情報では、上場企業から有力未上場企業まで全国約3万社について、事業内容、役員、大株主、労務状況、要約損益計算書、要約貸借対照表、申告所得、売上構成、本社所在地などのデータをみることが出来ます。会社名をはじめとして、本社所在地、業種、資本金・売上高・などをキーに検索できます。人事情報は、全国有力企業約4,600社の他、中央官庁、政府関係機関、審議会、経済・業界団体、県庁の幹部職員、県議会・市長まで、約30万人の人事情報を、会社(官庁)名・氏名・業種・職種・勤務先住所・出身校・生年月日などから検索できます。

## 6 その他の新聞記事データベース

本学が現在導入しています、オンラインで利用できる国内の新聞記事データベースとしては、朝日新聞を対象とした「聞蔵DNA for library」、読売新聞を対象とした「読売YOMIDAS」、毎日新聞を対象とした「毎日NEWSパック」が利用できます。利用可能端末などは、「外部オンラインデータベース検索」のページ <http://www2.tamacc.chuo-u.ac.jp/library/databasetop.htm> で確認してください。

# Voice

たけやま きょうぞう  
竹山 協三

「学術情報センター」というような名称の組織に生まれかわって、程なく「図書館」は「施設」の名前としてだけ残る事になるのだそうである。このような図書館の「変身」は「時代の要請」によるものであって、他の「有力私大」は既にすませてしまっている事なのだそうである(先般「就職部」が「キャリアセンター」に「変身」したのも「時代の要請」だったのであろう)。市町村合併や区画整理で地名が消えたりするのと似ていなくもないが、昨今の「平成の大合併」はそうすれば(起債などの恩典で)お金が入って来ようという下心で行われるのだそうであるから、そういう事の何もなさそうな「緊縮財政」下の改組では、過ぐる大戦中の標語の言う「足りぬ足りぬは工夫が足りぬ」の精神で突き進むしかないであろう。

さて図書館に司書がいるのは当たり前であろうが、さる国では(英語式に読んでしまえば)「ドキュメンタリスト」なる国家資格があって、そういう人が(それが図書館でかどこでかは定かではないが)働いていると聞かされたので、想像するに会社の「新聞切り抜き係」がしているような事を組織的、盛大

に行っているのだろうか。

わが国は概ね(不用品から命まで)「捨てる」事に価値を見いだす文化のようで、捨ったり集めたり更にはそれを取っておいたりするのは格好い事とは考えられていない。その結果「新しい」ことが価値上位、「古い」ことが下位になって、「それはもう古い！」で万事ケリをつけられてしまう。アーカイブス等が諸外国に比して貧弱だと言われるのもこの文化のせいでもあるのかも知れない。

一方「電子媒体」の「進化」により、物心付いて以来の見たもの書いたもの、文字であれ映像であれ、あらゆるガラクタ(小学校時代のテスト用紙、集めたチラシ、読んだ本)を何でもかんでもデジタル化してそのハードディスクを床下に埋め込んだ「自分アーカイブス」で暮らしながら、「思い出」を適宜取り出して楽しんでいるという人も現れたのだそうである。しかし臨場感漲る自伝を残した女性科学者(ノーベル生理学賞を受賞した)の「日記などつけない。たとえ文字で残っていても、その時の活き活きした感情が失われてしまえば意味がないから。」という言葉もまた耳に痛い。

(理工学部教授)

**住 所**：〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-21 日本酒造会館1F・4F

**T E L**：03-3519-2091

**F A X**：03-3519-2094

**U R L**：http://www.japansake.or.jp/

**蔵書検索**：無（但し、銘柄検索 有）

**利用資格**：18歳以上（但し、きき酒を行う場合は20歳以上）

**開館時間**：10:00～18:00

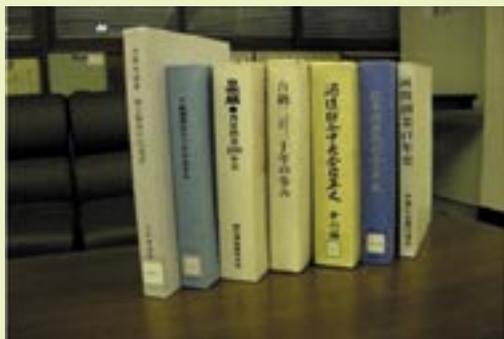
**休館日**：土・日・祝日・年末年始（イベント等の開催による臨時休館有）

**サービス**：閲覧・複写・レファレンス

**蔵書数**：6,000冊（和書 5,500冊 洋書 50冊） AV資料 12点  
雑誌30冊タイトル

**交通アクセス**：東京メトロ銀座線 虎ノ門駅より徒歩3分、  
東京メトロ千代田線 霞ヶ関駅より徒歩3分  
都営地下鉄三田線 内幸町駅より徒歩3分

**座席数**：14席 蔵書検索機 3台、AV再生装置 1基



所蔵資料の一部



1F 日本の酒との出会いとふれあいの場

日本の酒情報館『SAKE PLAZA』は、日本の酒の持つあらゆる文化的要素を総合的に、集約・情報化し、受信と発信を展開していくための広報拠点・資料公開の場です。

日本の酒について詳しく知りたい方のために、6,000冊に及ぶ蔵書が開架式で閲覧できるばかりではなく、北海道から沖縄まで、都道府県順に全国の日本酒、本格焼酎・泡盛、本みりんを約800銘柄展示しています。

館内のコンピューターでは、銘柄検索、日本酒に関する用語検索、全国の蔵元（メーカー）の情報が検索できます。

また、蔵元自慢の酒販売や、販売品のきき酒（有料・5銘柄）も行っています。

海外からの来館者も多く、いつの時代においても人々に愛され、育まれてきた日本の酒は、世界に誇るかけがえのない文化のひとつと言えます。知っているようで、じつはあまり知られていない日本酒の世界。日本の酒情報館『SAKE PLAZA』では、なつかしい故郷の銘柄、いつか飲んだあの銘柄と再会できるかもしれません。



4F 閲覧室

# 新収資料紹介

## ①教職員著作目録 2004.10-2005.1 ( )は所属学部等

著者名	書名	出版社	配置場所	請求記号
石川 晃弘 (文学部) 編著	体制移行期チェコの雇用と労働 (中央大学社会科学研究所研究叢書 13)	中央大学出版部	開架・中央	366.02348/I76
飯田 朝子 (商学部) 原案・監修 湯村 輝彦 絵	数え方クイズ100 (小学館文庫)	小学館	開架	815.2/I26
眞船 洋之助 監修・編著 石崎 忠司 (商学部) 編集代表	環境マネジメントハンドブック	日刊工業新聞社	中央・参考	M519.5/Ma28
内田 孟男 (経済学部)・ 川原 彰 (法学部) 編著	グローバル・ガバナンスの理論と政策 (中央大学社会科学研究所研究叢書 14)	中央大学出版部	開架・中央	319/U14
宇佐美 毅 (文学部) 著	小説表現としての近代	おうふう	開架・中央	910.26/U92
小塩 節 (名誉教授) 著	自分に出会う	青娥書房	開架	289/O77
奥田 安弘 (法科大学院) 著	国籍法と国際親子法	有斐閣	開架・中央	329.91/O54
金井 貴嗣 (法学部)・川浜 昇 編	独占禁止法	弘文堂	開架・中央	335.57/Ka44
川越 泰博 (文学部) 著	明史 (中国古典新書続編)	明德出版社	開架・中央	222.058/Ka92
柏木 昇 (法科大学院) 監修・ 美原 融 編著	PFI実務のエッセンス	有斐閣	開架	335.7/Mi17
ルーベルト・シエトレ 著・ 喜多尾 道冬 (経済学部) 訳	舞台裏の神々	音楽之友社	開架・中央	764.3/Sc7
菊沢 研宗 (国際会計研究科) 著	比較コーポレート・ガバナンス論	有斐閣	開架・中央	335.4/Ki29
木田 元 (名誉教授) 著	ハイデガー拾い読み	新書館	開架・中央	134.944/Ki12
小島 武司 (法学部) ほか 編	法曹倫理	有斐閣	開架・中央	327.1/Ko39
小滝 富雄 (名誉教授) 著	メキシコのわらし	文芸社	理工	049/Ko92
坂本 正弘 (総合政策学部)・ 吹浦 忠正 編・著	新しい日本の安全保障を考える (虎ノ門DOJOブックス)	自由国民社	開架	392.1/Sa32
安田 暎胤・白柳 誠一・ 眞田 芳憲 (法学部)・樋口 美作 著	叢知	佼成出版社	開架	160.4/Y62
白羽 祐三 (名誉教授)・ 山田 創一 著	民法総則講義 第2版	駿河台出版	開架・市ヶ谷	324.1/Sh81
角田 邦重 (法学部)・ 山田 省三 (法科大学院) 編	労働法解体新書 第2版	法律文化社	開架・中央	366.14/Su58
角田 邦重 (法学部)・ 毛塚 勝利 (法学部) 編	労働法の争点 第3版 (法律学の争点シリーズ 7)	有斐閣	中央・市ヶ谷	Z32/J43:4
J.ベルクマンズ 著・ 田中 素香 (経済学部) 全訳	EU経済統合 深化と拡大の総合分析	文真堂	中央	333.5/P36
高橋 琢磨 (国際会計研究科) 著	知的資産戦略と企業会計	弘文堂	開架・中央	336.94/Ta33
都筑 学 (文学部) 著	希望の心理学	ミネルヴァ書房	開架・中央	141.27/Ts99
藤本 哲也 (法学部) 著	犯罪学の窓	中央大学出版部	開架・中央	236.3/F62
藤本 哲也 (法学部) 編著	諸外国の修復的司法 日本比較法研究所研究叢書 67)	中央大学出版部	開架・中央	326.9/F62
筆谷 勇 (国際会計研究科) 著	公会計原論	東京リーガルマインド	開架・中央	343.9/F52
筆谷 勇 (国際会計研究科) 監修	Q&A公会計読本 日本公会計総合研究所編集	ぎょうせい	開架・市ヶ谷	343.9/N77
鈴木 正朝著・ 堀部 政男 (法科大学院) 監修	個人情報保護法とコンプライアンス・プログラム	商事法務	開架・市ヶ谷	336.1/Su96
丸山 秀平 (法学部) 著	やさしい会社法 第7版	法学書院	開架・中央	325.2/Ma59
ニコライ・ハルトマン 著・ 村岡 晋一 (文学部) 監訳	ドイツ観念論の哲学 第1部 フィヒテ、シェリング、 ロマン主義	作品社	中央	134.3/H33
目加田 説子 (総合政策学部) 著	地球市民社会の最前線 (新世界事情)	岩波書店	開架・中央	329.36/Me29
ベルンハルト・グロスフェル 著・ 山内 惟介 (法学部・法科大学院) 訳	比較法文化論	中央大学出版部	開架・中央	321.9/G88
矢島 正見 (文学部)・ 丸 秀康 編著	よくわかる犯罪社会学入門	学陽書房	開架・中央	326.35/Y16
久塚 純一・山田 省三 (法科大学院) 編	社会保障法解体新書	法律文化社	開架	364/H76
横田 洋三 (法科大学院) 編著	新国際機構論	国際書院	開架・中央	329.3/Y78
渡部 芳紀 (文学部)・志村 有弘 編	太宰治大事典	勉誠出版	参考	M910.26/D49/Sh56

\*配置場所の記載は2ヶ所までとした。

## ②中央大学関係資料目録2004.10- (貴重書・準貴重書指定)

直筆原稿・書簡等

編著書	書名	請求記号
和田 芳恵	草稿「歴史のひとこま」	K910.26/W12
杉村 楚人冠	短冊「杉村 楚人冠 筆」	K289/Su39

著者署名入り

編著書	書名	請求記号
和田 芳恵	「動祖神暮」	913.6/W12
石原 八束	「句集 秋風琴」	911.36/I74
中沢 新一	「三万年の死の教え」	180.9/N46
鷹羽 狩行	「句集 誕生」	911.368/Ta31
鷹羽 狩行	「平遠 句集」	911.368/Ta31
鷹羽 狩行	「五行 句集」	911.368/Ta31

中央大学関係資料

編著書	書名	請求記号
中央大学昼間部学生自治会	「belum omnium cntra omnes」	051.7/C66



## 貴重書・準貴重書の 利用について

貴重書、準貴重書の閲覧は館長の許可を要するため事前の  
手続きが必要です。

詳しくは中央図書館2階カウンターにお問い合わせくだ  
さい。

なお、大学院生は指導教員の推薦状が、学部学生は指導  
教員の同伴が必要となります。



### (1) 「図書館要覧」刊行について

1995年以来一時刊行を中止しておりました「図書館要覧」を、内容も新たに1月に刊行いたしました。写真等により図書館の概要が説明されています。カウンター等で配付していますので、是非ご覧ください。また、図書館ホームページの「図書館刊行物」の欄からも見るすることができます。

### (2) 4月企画展示実施

本誌第2号(12月号)で紹介された「トマス・ハーディ コレクション」について、下記の日程で展示を行います。 **期間:** 4月4日(月)～4月16日(土) **場所:** 中央館2階ホール(展示ケース)

### (3) 「中央館マイクロフィルム資料庫増設工事」

エレベータ工事と同じ時期に、マイクロフィルム自動出納機(システムトリーブ)の増設工事を実施しました。今回の工事により、26,880個のマイクロフィルムが追加で収蔵可能となりました。

### (3) 2005年度開閉館日程について

今年度につきましては、詳細について決定しておりません。確定致しましたら、図書館ホームページ、毎月配付している図書館カレンダーにてお知らせいたします。

なお、2005年度の中央図書館、理工学部分館の日曜日の開館は、以下の日程を予定しています。

- 1) 中央図書館 (2005年) 7月10日(日)・17日(日)・24日(日): 10時～18時  
(2006年) 1月15日(日)・22日(日): 10時～18時
- 2) 理工学部分館 (2005年) 7月24日(日)・7月31日(日): 10時～18時  
(2006年) 1月15日(日)・1月22日(日)・1月29日(日): 10時～18時

### (4) 2005年度サービス状況について

キャンパス	館・室名	場 所	開館時間		
			平日	土	日・祝
多摩キャンパス	中央図書館		9:00～22:00		△
	大学院図書室	2号館5階	9:00～20:00		閉館
	文学部専攻図書室	3号館4階～9階	9:30～20:00	9:30～12:00	閉館
	総合政策学部図書室	11号館3階	9:00～20:00	9:00～17:00	閉館
後楽園キャンパス	理工学部分館	6号館5階～7階	9:00～21:00#1		△
	文系大学院図書室	3号館13階	9:00～22:00#2		10:00～18:00#3
市ヶ谷キャンパス	市ヶ谷キャンパス図書室	4階	9:00～22:00#2		10:00～18:00#3
	同 上	3階	9:00～24:00#4		

休館日については、各館により異なりますので、詳細はホームページをご覧ください。

△: 時期により休日開館を行っています。

#1: 試験時期には、22時まで開館しています。

#2: 大学院授業期間以外は20:00まで開館しています。

#3: 大学院授業期間以外は閉室しています。

#4: 年末年始は除きます。

## 編集後記

新入生の皆さま、入学おめでとうございます。

今回の特集は、図書館長の川口紘明先生に、新入生の皆様へ向け「詩歌を読む」を執筆していただきました。受験勉強で<知>に疲れた頭を叙情的な詩の世界で癒してはいかがでしょうか。

図書館の資料は学業はもちろんのこと、心を豊かにするためにもご利用下さい。

この時期、様々な利用ガイダンスを行っていますので、利用にとまどわれた場合は是非ご参加下さい。「My CUL」でも、みなさまにとって身近なものになりますよう広報活動を続けて参りたいと思います。

最後に、今号作成にあたり、voiceにご執筆いただきました理工学部の竹山協三先生、取材に応じていただきました「日本の酒情報館」スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。